令和５年度第１回米子市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会　議事録

日時：令和５年５月２４日（水）午後３時００分から４時２６分
場所：米子市役所５階　議会第２会議室

**１　開会・会議の成立**（午後６時００分）
＜事務局＞
・開会
・全２３名委員のうち、１６名の委員の出席を確認、過半数の委員の出席により会議が成立していることを報告。

**２　市長あいさつ【省略】**

**３　議題**
（仁科委員長）
＜会議の公開について諮り、会議で了承。＞

**（１）「地域包括支援センター運営協議会委員」及び「地域密着型サービス運営委員」の兼任について**
（仁科委員）
それでは、議題に入りたいと思います。議題 2、「「地域包括支援センター運営協議会委員」及び「地域密着型サービス運営委員」の兼任について」、事務局から提案お願いします。

（事務局：飯田係長）
＜資料２に基づき、各委員会の構成委員（案）を提示＞
**【承認】**

**（３）令和５年度のスケジュールについて**

（仁科委員長）
それでは、議題 3 に入ります。「令和 5 年度のスケジュールについて」事務局から提案をお願いします。

（事務局：飯田係長）
＜資料３に基づき、今年度のスケジュールについて説明＞

**（４）第９期計画の認知症施策について**

（仁科委員長）
　それでは次の議題４にいきます。続きまして、「第９期計画の認知症施策について」事務局から提案してください。

（事務局：飯田係長）
　そうしますと、お手元に策定委員会の資料４と番号を振っております、第９期計画の認知症施策についてご準備いただければと思います。
　本来ですと、次期の計画に向けて、基本理念ですとか、基本目標を組み立ててから個別の施策について考える格好になりますが、今現在進捗している事業であれば、もう既に見えている課題だったり、今後の展望といったようなものがございます。
　それらをある程度ベースにしながら、ご協議いただけるものから順次、今後積極的に案を出していきたいと思っております。
　今回第１回目の策定委員会ではありますが、早速第９期に向けて、主に認知症施策というところで、今の現状だったりとか、今後の展望について、皆様とご協議させていただきたい、ご意見等いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

　そうしますと、資料１ページになります。初めに今の現状の米子市の認知症施策というところで、総論として述べさせていただいております。こちらについては様々な取組みを現在実施しておりまして、なかなかこのコロナ禍で思うようにできなかった部分、停滞してしまった部分というのもあるのですが、積極的に取り組んできた部分、さらに言うと米子市独自の施策というところも積極的に推進をしてきたところがあります。
　しかしながら、やはりそれで今十分とはこちらの方も考えておりませんで、今現在様々出ている課題、そういったものはあると感じております。
　また、今後こういった認知症の高齢者の方というのは増えていくことが確実に見込まれておりますので、現状維持、今のままでいいとも思っておりません。
　やはり今後も認知症の高齢者の方が増えるということを見込みながら、もう一歩進んだ施策の推進というのが必要ではないかと考えております。
　そういったところを踏まえまして、第９期計画では本日も先行してお話をさせていただいているところですが、認知症施策に関することについては一つの基本方針、柱の一つといったような格好にしたいと思っております。
　その中で具体的にどういったことを考えているかというのを、本日はご案内させていただきます。

続きまして、2ページ目をご覧ください。第9期計画の中での認知症施策を一つの大きな柱としたいと思っておりまして、その中でもさらにこういった８つの体系、小さな柱といいますか、そういったものを設けたいと思っております。順番にこの後ご説明をさせていただきます。

3ページ目ご覧ください。まず初めに、認知症の理解啓発といったところです。こちらについては、様々今現在も取組みをしているところではございます。特に認知症サポーターの養成講座といったことは本市としては積極的に取組みを行っているところですが、やはりそうはいっても依然として認知症に対するイメージであったり、理解といったところには、現在課題があると思っております。

具体的にどういったところが課題かと申し上げますと、そうは言っても認知症になるのってやっぱりどこか不安がある。自分はなりたくないとか、自分の身に起きることとしての理解といった部分では課題があるかと思っております。認知症の方に対する理解であるところは、ある程度一定の進捗が見られると思うんですが、やはりそういったところにはまだまだ課題があるかなと感じているところです。ですので、9期の計画では主にそういった視点で様々な施策を考えていきたいと考えております。具体的な案等については、資料掲載の通りですので、お読み取りいただければと思います。

4ページ目をご覧いただければと思います。こちらについては、わかりやすく言えば認知症の予防といったような項目になります。認知症予防については、完璧にならないようにするといったことではなくて、認知症の進行を遅らせる、認知症になるのを少しでも後にずらす、そういったようなところ意味での予防といったことになります。こちらについては、今後9期計画の中ではまた改めて個別のお話をさせていただくことになりますが、本市が推進をしていこうと思っておりますフレイル予防に絡めて、こちらの認知症リスクの低減というのも充実させていきたいと思っております。具体的な方法、施策等については掲載の通りです。

続きまして5ページ目、見守り体制の充実というところになります。こちらについては認知症の方の特徴を踏まえまして、そういった方々が地域の中で安心して暮らせる、そういったことにはどういったものが必要かというところで今現在考えているところです。

現行で、事前の登録制度だったり、GPSの貸与事業といったようなことをしておりますが、それ以外にも、身近な地域の中での薬局だったり、スーパーの連携とか、協力体制の仕組み作り、みんなで受け入れ見守っていく、そういったようなところというのがなかなかまだ現行できていないところがあるんじゃないかと考えておりまして、そういったところをベースに、見守り体制というものをもう少し底上げできないかと考えております。

続きまして、資料の6ページ目になります。本人発信の支援と家族・支援者の支援というところで挙げさせていただいております。こちらについては、やはり認知症の方を支える家族の皆さんの負担というのは依然として大きいというところを一つ大きな課題意識として思っております。それに向けては、やはり初期の段階でしっかり支援が入るということ、それから、一体何をもって負担軽減になるのかということを、もう少し突き詰めて考

えていって施策に反映させていく必要があるかなと思っているところです。具体的な取組みとして以上挙げさせていただいております。
　続きまして、7ページ目になります。こちらは施策やサービスそのものというわけではないんですけれども、その認知症の方のそういった様々な特徴であったりとか、その独自性から踏まえまして、やはり本人さんであったりそれを支えるご家族さんの視点というのが施策に反映させていくということがしっかり必要じゃないかと今考えております。
その点についてはなかなか現在できていないというか不足している面だなと思っているところです。具体的にどういったことで考えてるかといいますと、認知症の方については専門のオレンジの会というのを米子市は設けておりますが、こちらの会の機能強化、そういったようなことを踏まえて実際の当事者さんの思いに寄り添ったりですとか、より実効性の高い、役に立つといいますか、そういった施策をしっかり作っていくためにどうしていくかというようなことを今考えていきたいなと思っているところです。
　続きまして、8ページ目になります。若年性認知症の方への支援ということで挙げさせていただいておりますが、こちらは今現在もなかなか十分できているとは言い難いかなと思っております。早期の対応というのがなかなかできておりませんで、相談先に繋がるような場合であっても、既に就職先、就労先を退職している方がそういった場合が多いというような現状も聞いております。企業に向けての、もう少しこの若年性認知症というものの理解だったりとか、認知というものをしっかり底上げしていくということ。それから、きちんと適切なタイミングでサービスに繋がるためにはどういった仕組みが必要かといったことをしっかり考えていきたいなと思っております。

　続きまして、9ページ目になります。医療介護連携体制の強化というところです。
認知症については、医療と介護の連携、関係者同士の顔の見える関係性というのが非常に重要であるというところがありますけれども、こちらについては、やはりケースバイケースではあるんですけれども、実態としてやっぱり個別の対応になってしまっているといったようなところもまだ現状あると認識しております。
　そういったことにならないように、その両者間が分断されたり個別ということにならないために適切なサービスの流れというものをこちらでもきちんと確認をさせていただいて、それを両者間で共有できる、そういった担当を設けたいと思っております。具体的には、認知症ケアパス等を、今後見直していって、今言ったような機能の部分を強化していきたいと考えております。
　最後になります。10ページ目、生活支援の充実です。こちらについては現行の8期の計画ではないような項目にはなるんですけれども、やはり今までここまで様々申し上げてきましたが、実際にその認知症の方やそのご家族の方が本当に何で身近に困られるかというところって、やはりその日々の生活なのではないかなと今感じています。
　そういったところにもう少しできることだったりとか、必要なものを充実させることができないか。そういったことを現在考えております。案として挙げておりますのがいくつ

かありますが、こちらについては今特にこういったサービスがあるとかということではありませんので、今後検討の可能性だったりそういったものを積極的に考えていきたいと思っているところです。

以上、資料について一通りご説明させていただきましたが、今申し上げたのが全て「案」という格好で、これらを踏まえながら今後9期に向けて事務局の方で検討に入っていきたいと思っているところです。

それに差しあたりましては皆様の方からも様々ご意見をいただいて、それを参考に今後検討していきたいと思っておりますので、説明の方は本当に概要というか、簡単にさせていただきましたが、この後のご協議、ご意見等でいただければと思います。よろしくお願いいたします。

（仁科委員長）

ありがとうございました。今の事務局からの提案についてご質問、ご意見があればお願いします。

（木村委員）

木村と申しますが、私鳥取県の老人クラブ連合会の副会長をしておりまして、大変高齢者の比率が高くなっています。

2025年令和7年がピークではないかということですが、鳥取県が推奨しております、鳥取方式の認知症予防プログラムというのが、4ページ、いわゆる認知症発症のリスク、これを少しでも遅らせると実践ということなんですね。

フレイル予防と合わせて、この鳥取方式の認知症予防プログラムの実践ということをぜひこの中で取り入れればいいのではないかと、こういうふうに感じましたので、提案させていただきました。

（仁科委員長）

ありがとうございます。吉野委員お願いします。

（吉野委員）

認知症の人と家族の会の吉野です。

まず、米子市さんで9期計画の中で認知症施策を重点課題の一つとして取り上げてもらって大変嬉しく思いますし感謝申し上げたいと思います。特に今、国の通常国会でおそらく認知症の基本法案が提示され、論議され、おそらく何か可決するんではないかという流れがあるということを聞いておりますので、そういう中でそれを先取りしながら、こういう9期計画の中でこれを取り入れようということは大変いいことだと思います。

それから、先ほどの内容を聞いていまして今までの計画を今の新しい形に変えられてきているということも、大変感銘することかなと。

当事者である本人・家族の視点で問題を考える、ということであったり、地域との関係を大切にするという私達もずっと前から認知症の取組みでは、地域作りということで取り組んでいるわけですけども、そうした問題がより一層、病気という視点でなくて、暮らしの障害としての支援が位置づけられることでは賛成したいと思いますし、積極的に施策に関わっていけたらなと思います。

それから先ほど意見が出ました、認知症のフレイル予防という観点についてですが、これはフレイルの方が、私どもも鳥取県と一緒に、認知症フレイル予防というのは一昨年は10年ぐらい地域の認知症予防リーダー養成という取組みをしてきておりまして、そういう経過もあって、この数年前から、認知症予防ということで運動を中心としたプログラムを推奨して、少なくとも鳥取県内の全ての市町村はその運動を中心とした取組みはなされていると思うんですけども。

認知症ということに関わったフレイル予防という面では、まだまだ十分ではない。運動ができる基本的な体力をどう維持するかということが実は考えられてなくて、認知症の問題というのは実は、認知症になっても、心と身体が元気であることが大事なことですから、そうした時点でのフレイル予防というのがすごく大事になってくる。

ですから、今回そういう形で認知症のフレイル予防という形で考えられたことについても、すごくいいことだと思うんですけれども、ただこの内容については日本の中でも様々な方法がありまして、先ほど言われた、浦上先生たちが言われてきた鳥取方式ということだけではなくて、現に鳥取県でも昨年からスマホでできる健康プログラムをやっておりますし今年もそれが継続されています。

それに、米子市独自で永江地区での経験をもとにした色々な取組みをしていますよね。そういうものが色々今行われている最中ですので、逆に言えば、それらのいいところをどんどん取り入れながら、米子市独自の、やはりただ単に健康ということだけ、あるいは運動ということだけを考えたフレイル予防ではなくて、暮らしの中で認知症があっても、元気に暮らせていけるような、そういう仕組みを作っていくことも含めたフレイル予防の取組みをしていくということが大事かと。

それともう一つとても大事なのは、認知症はそれでもやはり進行性の病気ですので、その進行する時々においての関わり方が非常に大事なんですね。ところが今の制度は、もちろん認知症になって進行していく中で色々なものが切り捨てられて行っているという部分がたくさんあります。

例えばリハビリ一つとっても、そういうことが行われているということがある。私達は認知症の人っていうのは基本的に全てわかっているけれども、自分の思いは伝えられない人たちであるということを考えておりますので、どんな状況下でも本人に可能性があることがあれば、それを追及していく。そういう進行性の病気についてのやはり考え方を、明確にしていく必要があると思います。

（仁科委員長）

ありがとうございました。土中委員お願いします。

（土中委員）
理学療法士会の土中ですが、認知症のフレイル予防のところ、すごく同意するんですけれども、1つ、MCIの捉え方というのはどう捉えてるのかな、と。
結局、認知症になったら遅いのでMCIをいかに見つけるかが認知症の発症を遅らせる、またはもとに戻れるタイミング。認知症になったら方は、もう本当に先ほど吉野委員が言われたように、みんなで協力して、色々なことをしていくのは当然なんですけどMCIを見つけていかないとどうにもならないとは思ってるんです。これどうするのかというのは非常にこれも確立されたものがないのが現状です。
もう一点は、9ページの医療介護連携体制の強化というのは大体これ言葉が出るんですけど、そのときに具体的にどうするのかというのは、私はかかりつけ医というのが、やはりここが芯になってくるんじゃないかなと思う。どうしても病院の、医院の先生方も皆さん関わられている。そのときに、この関わりがこれ全部関わってる高齢者の地域包括ケアも含めて、ここのところもかかりつけ医をきちっとできていないとやはりサポートできない。
リハっていうのは実は先生にオーダーを出してもらわないとできないんです。ここら辺の、具体的に地域のかかりつけ医をいかに動かすかというのをぜひ盛り込んでいただきたい。

（仁科委員長）
吉田委員お願いします。

（吉田委員）
自分の経験の母親とかを見ていて、やはり85歳になったら急速にやっぱり進んでいくなという気がするんですけども、認知症。それと、身近な人の死が与える影響、病気になったり、むしろ1人、その人はわかってないけどやはりおかしくなって。ものの考えだとか、そういうのがおかしくなってるなという気がしないでもないんですけど、それは専門家の方から聞いたらどうなふうに考えておられるんでしょうか。

（吉野委員）
基本的に認知症を発症してる人の8割は80代以降に発症してるんですから、当然の結果だと思う。

（吉田委員）
それと私この頃気になるんですけども、男性の72、3歳とか、すごく死亡率が多いですよね。あれ見てて、身体の変化が急激にすごく変わるのか、それとも戦後、やはり栄養が

必要な時期にとってないとかそういうのも関係するのかなって思うんですけど、この頃は女性も結構 73 くらいで亡くなっていますよね。それとはちょっと違うけど、死亡ということに関してどうなのかなっていつも思うんです。
　自分の身の周りでも退職されて、やはり健康を害される方がすごく多いということ。今まで、自分の父親とかがされてたことが自分にかかってくる、というのもあるんだろうと思う。栄養ってどこから来てるのかなと。70 代の人の・・・。

（仁科委員長）
　貴重なご意見をありがとうございました。認知症だけではなくて、そういった退職後の男性の方の支援とか、そういったところも必要ではないかというのが。

（吉田委員）
　そういうのも調べてみる必要がありますよね。

（仁科委員長）
ありがとうございます。生島委員お願いします。

（生島委員）
　10 ページの方にもありますけども、買い物支援事業についてなんですが、弊社も色々職員と話していたんですけども、やはり買い物のニーズすごい強くて、買い物ができるようになると結構自信がついてそこからやはり拡大したいということで、うちの方も通ってきた人たちが卒業してどうやって買い物しようか悩むような現状もあって、やはり重要だなというところで、その中でうちの場合、自費サービスの方もやらせていただいていて、聞き取りもやってるんですけど、その中で出てくるのは、ゆっくり買い物したいから、ショッピングリハだと時間がかかって待たせると心配だからとか考えながら色々なもの買いたいけど買えないというニーズがあったりする。そのあたりやはり、スローショッピングではないですけどもゆっくりと自分で今日のメニューであったり色々な人のことを考えながら脳を活性化させながら運動するというのは、買い物はすごい一番いいリハビリ事業だと思っているので、こういうのが拡充してくれるとありがたいなというのと、
　やはり高齢化進んでくるとやはり免許証の問題も出てくるので、米子市としても安心して免許を返して生活ができるという事業が出てくると、そういうところの安心が生まれて、認知症の施策にも繋がるんじゃないかなと思っております。

（仁科委員長）
　ありがとうございます。

（田村委員）

4ページの方、フレイル予防の実践等のところで、少し気になるところがあったので。具体的には、言語聴覚士内で、オーラルフレイルだとかもあるんですけど、ヒアリングフレイルという言葉も最近出ておりまして、高齢化されて難聴になられた方が認知症を発症されるというデータがたくさん出ておりまして、イギリスで出てるので日本でどうだと言われるとあれなんですけれども、そういった難聴に対する施策というのも少し入れていくとまた変わってくるのかな。

もちろん先ほど言われた運動もそうですし、頭もそうなんですけれども、やはりその生活している中で、家族の声が聞きにくくなって孤立していってしまうとかというところもお助けできることがあれば、そういった施策も入れてほしいと思います。

（仁科委員長）

ありがとうございます。いかがでしょうか。私の方から一つ伺わせていただきたいんですけれども、認知症対策を柱とされるということで、とてもいいことだなと思うんですけれども、そのどちらかというと、ニーズ調査の結果を踏まえ、今回の認知症対策ということをそれを踏まえて柱にされたということなのか。米子市の独自の施策として認知症を柱にした理由というところを少し聞いてみたいなと思いました。

もう一つが、この認知症の施策の中にフレイル対策だったりとか、日常生活支援だったりとか、色々なことが盛り込まれているんだけれども、私は頭の中が整理できていなくて、その認知症の施策、フレイル対策、あと日常生活支援、そういったものがそれぞれ別の柱のような気もするんですよね。

今回はこの資料しか見させてもらってなくて全体像じゃないので、多分私の頭の中の整理ができていないんですけれども、認知症を柱として、その中に、認知症施策の例として、今回出されたという理解なのかなとも思いますけれども、そのあたりを少し教えていただけたらと思います。

（事務局：飯田係長）

今仁科委員さんからご質問いただいた件について、私からご回答させていただきたいと思います。

まず、今回の認知症施策を重点の柱の一つにしようとした理由というところですが、この後の議題で出てくるニーズ調査の結果を踏まえてというよりは、独自に重点化していこうというふうな思いがあります。様々な理由がありますが、一つはやはり認知症の高齢者の方が今後確実に増えるというところで、ニーズとしてもかなり高まっていくだろうというところが最大の理由です。

例えば買い物支援であったりとか、そういったことについては認知症の方に限らない部分でもありますし、そういったものはやはり生活支援という体系でもう少し全体的に考えていく必要があるんじゃないか、そういったことは頭の片隅では思っておりますので。今回は認知症で切り取ってクローズアップして議論がしやすいようにさせていただきました

が、実際の体系としてはもう少し今後協議を重ねながら考えていきたいと思っておりますし、その中ではやはりこの策定委員会の中で出た意見等々を踏まえながら、今後考えていきたいと思っております。

（高野委員）
　やはり包括が十分に機能していないのではないかというところもあるのではないかと思われるわけです。コロナの影響で訪問ができていないとかもあるんだろうと思うんですけれど、そのあたり、包括の相談件数が減っているのは何か特別な理由があるんでしょうか。

（長寿社会課：中村主任）
　長寿社会課中村と申します。包括の相談件数についてなんですけれども、この数が減っていることについては、やはり今おっしゃっていただいた通り、コロナの影響も大きいと捉えております。

（高野委員）
　令和2年でも既にかなりコロナの影響は出てるはずなんだけども、その辺りがどうなのかなと思うんです。

（事務局：飯田係長）
　高野委員さんの方から貴重なご意見をいただいたところなんですが、こちらの資料で載せているのが包括支援センターへの相談というところで数字を挙げさせていただいておりまして、次の議題でも触れるところにはなるんですが、包括支援センターといったところについては今後また別途審議の中でも様々今後の方向性等について議論していきたいと思っております。
　その中で、今の現状、委員さんの方からも御指摘があった点等についても、実態等をもう少し精査して確認していく必要があるかなと考えています。

（吉野委員）
　包括の相談件数が減っているというのは、おそらくコロナもそうだと思うんですけども、確か前回の策定委員会の中で認知症の相談窓口を知っていますかというアンケートの結果が出ていたと思います。包括という相談窓口があることを知らない人が5割ぐらいのデータでした。
　つまり、包括支援センターというのがあるけども、そこが認知症の相談をする窓口であるという理解がそれほど市民に定着していなくて、一般的にどういうふうになってるかというと、認知症の症状が出てから、かかりつけ医であったり、専門の病院を紹介、受診をしていって、そこから認知症の始まりが行われているんですよね。

つまり、今の制度設計はそういうことになっているので、今回米子市さんが出されたのはその制度設計のところは全部置いといて、従来の認知症の支援の制度のところは色々問題はあるんですけども、それは置いておいて、そうでない現実の中で、今認知症の取組みで大事なところが何か、つまり診断が行われるまでの、つまり色々な認知症の症状が出はじめる頃の部分の取組みをどういうふうにしていって、ということを理解をしていくための認知症に対する啓発内容を変えようではないかということ。

だからこれが非常に大事で、それから日常生活の例えば買い物支援であったり外出支援というようなことも認知症の症状があるとかないとか関係なくて、そういうものが日常的にに保障されていることが実は認知症のフレイル化を防ぐ。

先ほどのオーラルフレイルとかヒアリングフレイルとかもですね、フレイルっていうのは運動だけじゃなくて、身体全体に関わるものなので、そういうことにつながるものとして今回提起されているということが非常に大事なことであって、従来認知症の取組みといえば、もう症状が出て、受診をし、そこから始まるんだという感覚のものなんですね。

だけど、日常生活の中で、どう予防するか。先ほど土中さんが言われたMCIの段階というよりもう少しその一つ前のSCIの段階で気付くというような、あるいはその段階から住民自身がお互いに相互的に関わり合いが持てるような、そういう仕組みを米子市として進めていこうという方針なので私は非常に体系的に逆にできてて、特にやっぱりそういう方針をどんどん上げていく、そういう視点が大事かなというふうに思う。

（高野委員）

今のことでいいですか。今スタートの話だと思うんですけれど、実はその以前からそうだと思うんですけれども、実はこの中にも例えば医師会の先生とか入っておられないのじゃないかと思っていて。

前からそうなんですけど、なかなかかかりつけ医から認知症に持ってくるというのは非常にそのハードルが高いというのが実はあったりして、その辺りなんか米子市として積極的にやはり医師会との連携を、やっていく必要があるんだろうなと思ってるんですけれど、なかなかそのあたりが。

これは色々と、コロナのこともあったし非常に今、またさらにハードルが高くなるんだろうなと思っておりますけれど、まずやはりそこは、やっていかないといけないんだろうなと思っておりました。

（遠藤太委員）

これからの取組みになると思うんですけども、フランスにはアルツハイマー村という村があるんですって。これは、フランスの国がやってるんですけども、広いところに多分グループホームのような7、8人の人が入れるようになってる建物がたくさんあるんですよ。

そして公園もあって、その中で、家族がおられたら、一緒に散歩ができたりとか、もう本当に自由な感じで、ただその人たちは、その自分の建物を出るときにはちゃんとガラス

張りのところを通っていかないといけないので、勝手な行動はできないみたいな。そういうふうに自由にさせてあげているということと、もう一つは食事なんですが、例えば日本でしたらもう、朝、昼、夜、時間が来たらやはりそこで食べてもらわないと、職員さんも困りますしですね。でもそこでは、欲しくなかったら、その時間に食べなくてもいいんですって。3 時頃に、例えばお腹が空いてきたなと思ったら、その人が食べたいと思ったときに食事をさせてあげるというシステムなんですって。

多分今の段階では日本では難しいかもしれない。というのが、やはり国全体がそういうことに取り組んでいかないと、そういうふうにゆったりとした生活をさせてあげられないかもしれないということなんですけれども、やはり日本もそういうふうな方向性に持っていけたら、例えば米子市でもその中で、少しでもそういうもう少しゆとりのある生活がさせてあげられるような状況に持っていけたら少しはいいなと思いました。

**（５）ニーズ調査の結果を踏まえた第９期計画の方向性等ついて**

（仁科委員長）

では、次の議題に進みたいと思いますがよろしいでしょうか。議題 5 の、「ニーズ調査の結果を踏まえた第 9 期計画の方向性等ついて」事務局からお願いします。

（事務局：飯田係長）

そうしますと、資料 5「ニーズ調査の結果を踏まえた第 9 期計画の方向性等について」をお手元にご用意いただければと思います。先に申し上げさせていただきますと、こちらの議題については、先の認知症施策についてに比べますと、具体的な話にはなっておりません。今後のご案内になる部分もありますので、ご了承いただければと思います。

先般、ニーズ調査を米子市で実施をさせていただきました。資料 1 ページ目になります。こちら、第 9 期計画の内容を決めていくにあたりましてその基礎資料ということでこういった調査をさせていただいたところです。

昨年度の 3 月でしたかね、雪の関係で延期になりましたが、報告会の方も開催をさせていただきまして昨年度の委員の皆様にはご出席等もいただいたところでございます。そちらの結果を踏まえて今米子市の方でどういうふうに考えているかというようなお話になります。

初めにニーズ調査の概要資料 1 ページ目の方に載せております。はぐっていただきまして、資料の 2 ページ目には今回の調査の概要を載せさせていただいております。
こちらですみません一点修正がありまして、括弧 3 の調査期間について年度に誤りがございました。正しくは令和 4 年になりますので訂正をお願いいたします。

進んでいただきまして、資料の 3 ページ目になりますが、こちらのニーズ調査については、様々な観点から専門的な分析の方をさせていただいたところでございます。少し難し

い部分でありますので簡単にざっくりとでお伝えさせていただきますと、地域の中での課題といったところと、こちら米子市が今推進を考えておりますフレイルという部分の、この2つの面からですね、今どの地域でどういったところが不足しているか、どういったところが特徴として出ているかというようなところを分析をさせていただいたところです。こちらで浮かび上がってきた地域課題をもとに、では9期でどういった施策が必要かという話に、今後進んでいく流れになります。

4ページ目になります。主な分析の結果というのを、既にニーズ調査の報告の資料ですとか、報告会の資料で掲載させていただいている内容を抜粋しております。地域課題というところでいくとこういったこと、それからフレイルというところで見るとこういったところというところで、課題として浮かび上がってきたもの、そういったものを抜粋して掲載をしております。こちらについては既に皆様ご確認等いただいて、報告会の中でも様々ご意見等をいただいたところです。

進んで5ページ目になります。こういった結果を踏まえてどういったことを今後考えていくかという、もう少し具体の施策の手前の総論的な話になりますが、今こういったことを考えています。一つが、やはり地域ごとで浮かび上がってきた課題がありますので、やはりそれに合わせた地域ケア、そういったものを今後重点的に推し進めていく必要があるのではないかと思っております。具体的な方向性として挙げておりますが、例えば包括支援センター事業についても、やはりその地域ごとの特色に合わせた事業展開、そういったことをやはりもう少し濃淡といいますか、そういったものをつけていく必要があるのではないか、そういったことについて今後議論をしていきたいと考えております。
それから、こういった地域課題の部分というのは、行政からの一方的な展開だけではなくて、やはりその地域も巻き込んでといいますか、相互で一緒にやっていく、共通認識を持っていくというところが、やはり必要なのではないかと今考えております。そういったことを一緒に進めていくためにはどういった仕組みが必要か、そういったものを今後検討していきたいと思っております。

また、それらを総合的にやはり点検していく、評価していく、そういったものの仕組みであったりとか、機能というものをしっかり今後設けていく必要があるのではないか、そういったようなことを今検討しているところです。

それから2番目になりますが、様々な地域課題の中で、日常の生活での困りごとだったりとかそういったことも出てきておりました。そういったものもやはりどこに重点を持っていくかというところで、現在行っております総合事業ですとか、ボランティアなどの介護サービスというようなところではない部分で、もう少しそういったものを充実させていく必要があるのではと考えております。

それにあたっては、今現在行っている総合事業のそもそもの見直しであったりとか、総点検、そういったようなことも今後の議題の中で進めていきたいと考えております。

また、その他の取組みの充実ということで3番目に挙げておりますが、アンケート調査の結果の中で、先ほどの議題の中でもあったようなところでありますがそもそも相談先を

知らないとか、米子市がしている事業等についても知らないとか、そういったことがないように、やっているサービスだったり事業というものを皆様にきちんとお届けするというのはどういった仕組みが必要かということを、総論的にもう少し今後9期計画の中では深めていきたいなと思っているところです。

資料6ページ目になります。そういったような先のフェーズでの方向性を踏まえまして、今後こういった会議の場で具体的な、認知症の施策に関するような深さで様々議論していけたらと思っております。一つが、地域のニーズといったようなところでいきますと、今度包括運営協議会を近いうちに開催させていただきまして、そこで包括支援センターについては、よりフォーカスして話をしていきたいと思っております。

またこの策定委員会でも、9月頃の開催会において、地域包括ケアシステムに関するようなことを重点的に協議、議題として挙げていきたいと思います。

また、フレイルという点については次回の策定委員会、7月の開催を予定しておりますが、どういった施策展開をしていくかということを今後皆様の方にお諮りしていきたいと考えております。総論的な話になりますが、以上になります。

（仁科委員長）

ありがとうございました。それではご意見、ご質問等あればお願いします。
土中委員お願いします。

（土中委員）

3月のアンケートの分析を見て、非常に面白いというか、私はこういうので幸福度というものをすごく重視するんですけれども、独居が多いところが幸福度が低いんですね。逆に言えば、コミュニティがやはり作られてないんですよね。

そういったところがやはり幸福度が低くなっている。いかに長く生きるかじゃなくて、やはり幸福に生きたい、幸せに生きたいというのが本音だと思うんで。

逆に、スパゲティ症候群じゃないですけど繋がれて長生きしてもあまり意味がないというのは皆さんご存知だと思います。そっちを求めていくということで、コミュニティをいかに作るかということで自治会とかのことが何も書かれてないというのが私すごく気になるんです。こういう計画の中で自治会の活動がどうも米子市では低くなっているのが私すごく気になります。それがないと災害とか起こったときも非常に困ると思います。これだけ地震が起こって、大雨が降って、いつ何が起こるかわかりません。そのときにコミュニティが作られてないと悲惨なことになります。それも含めて考えて、この9期を作っていただきたい。いざというときですね。自治会の活性化みたいなことも少しここに入れて、フレイルも含めて、が一番いいんじゃないかなと私は考えています。

（仁科委員長）

ありがとうございます。いかがでしょうか。

（高野委員）
　おっしゃる通りなんですけど、米子市では自治会の加入率が60パーセントを切っている状況です。年々下がってきています。1つには核家族化で、米子市は人口は減っているけれど世帯数は増えているので、自然に減になるのは普通なんですけれど、集合住宅についてはほとんど加入されないというのが現状です。
　それと、関わり方で行くと、なかなか地域活動に参加される方、役員のなり手が少なかったり、色々なことが出てきている。
　それともう1つ、大きな問題、コミュニティ数のことも出てきてはいるんですけれど、僕はもう1つ大事な視点としては、例えば、米子市の職員とか、学校の先生とかが、地域と一緒にやっていきましょうみたいな話をされるんだけど、一旦自分の家に帰ったときにできるのかと。やっぱりできない。大変忙しくてできないという状況。それも仕方がないとは思うんですけれど、やはり、米子市の職員が日常的にもっともっと色々な活動に参加をしていくことが一番すごく大事。
　私も米子市の職員だったのでよくわかるんですけど、本当に、米子市の職員が関わっていないというのが実際だと思います。皆さんもそうだと思いますけど、一人一役なんですけれど、何かやっていただくというか、関わって面白いかといわれるとそうでもないんですけど、面白くしていこうと。
　先日、新しい自治連の会長が決まりましたけど、田辺さんという方ですけど、その中でお話しされたのが、正しいことより、楽しいこと。正しいことよりも、楽しいことをしましょうということがあって、自治会、地域作りも同じで、やはり皆さんがどうしたら楽しいかということを、やはり地域の中でやっていただくといいなというふうに思っています。
　簡単なことではなくても、要支援者の今の把握なんかの事業も今回要介護3以上の人を地域にリスト化しましょうとかという話もありますけれど、そういうこと以上に、やはりこれはやっていかないと米子市はだめだよという話かなと思っております。
　例えばこれについては、やはり米子市の職員が、自治体のの職員が積極的にやっぱり関わりましょうという条例になってますので、米子市もそのあたりも必要なのかなと思っています。

（仁科委員長）
　ありがとうございます。いかがでしょうか。では私の方から1点。資料の5ページの方向性の1の2点目のところに、ニーズ調査結果の地域へのフィードバックの仕組みづくりと書いてあります。ニーズ調査は、米子市の多くの人が米子市がやる調査だからと言ってすごく協力して、回答率もとても高い調査だと私は思っています。研究だったりで調査をしてもこんな回答率高くはならないんです。みんな結構、高齢者で私の知ってる範囲でも、たくさん項目があるなとか、よくわからんわとか言いながら回答したりしているという現

状で、私は調査結果の回答率の高さってすごいありがたいことだなというふうに思っています。

それをやはり回答してくださった皆さんに返すということは、絶対必要だなと思っていて、市民の方にも呼びかけられたんでしたっけ、結果の報告会というのは。そうだったのかもしれませんけど、十分に周知がされていないのではないかと思いますので、そういった機会をぜひ持っていただきたい、ということだったり、

先ほどの自治会の話もありましたので、自治会の方にぜひ出かけていかれたりして、地域の特徴が調査からこういったことが分かりましたということで、お話をされると、協力をしたかいがあったなとか、わざわざ来てもらったから自分たちはこういうことを頑張ろうとか、そういったことにも繋がるかもしれませんので、そういったことをぜひお考えになってもいいのかなというのは提案させていただきたいと思います。

（吉田委員）

食推なんですけども。この結果を見てて、とても面白いなと思って、この地域が抱える問題がすごく浮き上がっているなという。

この結果はやはりその地域で共有するということが、私達だけが知っててもどうにもならないので、私も共有するということがとても大切なのでは思っています。

（仁科委員長）

ありがとうございます。時間になりますけれども、よろしいでしょうか。それでは予定した議題については以上になります。それではこれをもちまして、第１回策定委員会を終了したいと思います。皆様大変お疲れ様でした。

**閉会**（午後４時２６分）